

人工ホダ場内環境調査結果 IV (1~3月)

1 はじめに

当センターでは、人工ホダ場と林内ホダ場及び林外の環境条件の違いを明らかにするため、1年間温湿度調査を実施した。今回は平成17年1月から3月までの測定結果について報告する。

2 人工ホダ場の概要

当センター内に設置した総面積520㎡の鋼材製一部木造の施設で、遮光資材は南東-北西方向に設置している。

3 調査方法

当センター内の林内ホダ場及び人工ホダ場のそれぞれにサーモレコーダーを設置し測定を行った。さらに当センター内の気象観測装置によるデータを林外として比較した。調査時間は0時から3時間毎である。

4 期間中の温湿度変化について

降雪及び積雪のあるこの期間の気温変化については、林外、林内及び人工ホダ場のいずれとも殆ど差が見られない。湿度については、人工ホダ場が林内よりも若干低目に推移している。(図-1、図-2。2月上旬林内・人工ホダ場とも欠測)

シイタケ菌が活動を始める5℃以上に最高気温が上昇した時は3月に入ってからであり、その旬毎の累積日数は林外、林内及び人工ホダ場ともほぼ同じである。(図-3)

5 1~3月の人工ホダ場の留意点

人工ホダ場内は、風が抑えられているため雪が積もりやすい構造となっている。ホダ木が埋雪し過湿状態におかれると、雪どけとともに、白色トリコデルマ菌の付着が見られることがある。この菌はホダ木が接触していると接触部分から感染していくので、発見した場合には、早急にホダ木を搬出して処分する必要がある。今回の調査結果から2月下旬から次第に気温が高くなり、雪どけが進みやすくなることから、雪どけが始まる時にはホダ場巡回を始め、排水管理等内部が過湿にならないようにする必要がある。

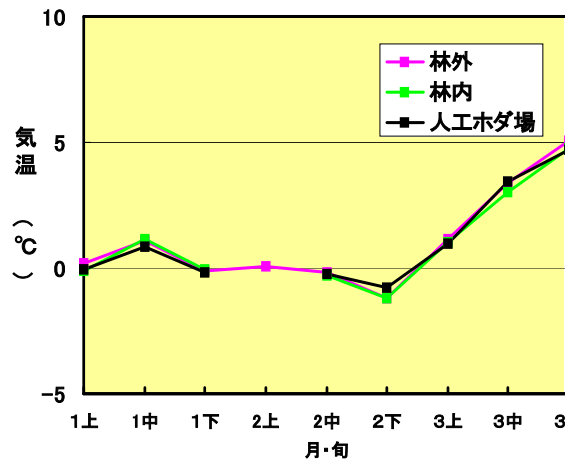


図-1 平成17年1~3月の旬毎の15時の平均気温
注) 2月上旬は林内と人工ホダ場欠測

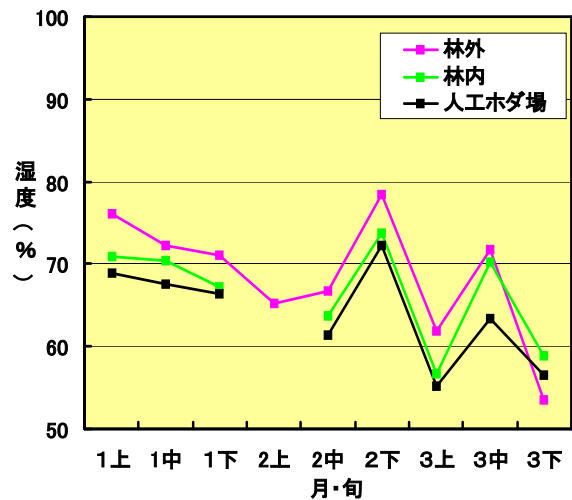


図-2 平成17年1~3月の旬毎の15時平均湿度
注) 2月上旬は林内と人工ホダ場欠測

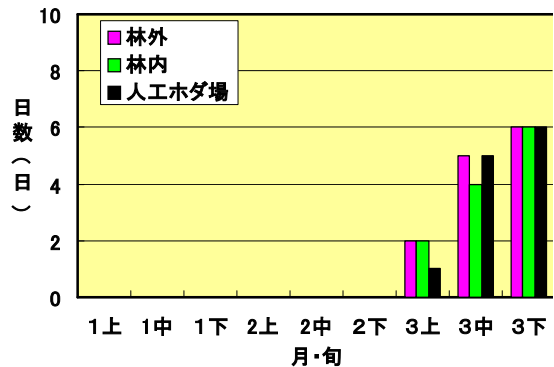


図-3 最高気温5℃以上の日数

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)